

# 若いなかま

若いなかま No.191

2014(平成26)年 11月15日 発行

発行 (公社)福岡県青少年育成県民会議

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号  
吉塚合同庁舎6F

TEL (092) 643-6001 FAX (092) 643-6003

E-mail : net.y.d@isis.ocn.ne.jp

ホームページ : <http://www.fayd.jp/>



## 目次

小・中・高校生等をつなぎ、育てる野外活動 … 1・2	家庭の日・オアシス運動…………… 6
第16回 福岡県青少年囲碁大会 …… 3	地域の話題…………… 7
第36回 少年の主張 福岡県大会 …… 4・5	青少年育成“考”、その他 …… 8

### (公益社団法人)福岡県青少年育成県民会議は、

青少年問題の重要性にかんがみ、広く県民の総意を結集し、国や県の施策に呼応して、総合的な運動を展開し、将来を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和41年12月13日に結成されました。

(昭和45年 社団法人。平成25年4月1日公益社団法人に移行となる。)









# 第16回 福岡県青少年囲碁大会

と き：平成26年8月24日(日) 9時30分～

と ころ：中小企業振興センター (福岡市吉塚)

今年で16回目を迎える福岡県青少年囲碁大会は福岡市吉塚にある中小企業振興センターで開催された。安田泰敏九段を講師に迎え、県知事杯争奪戦・ふれあい囲碁教室・プロ棋士による多面打ち・異年齢交流戦など6項目のイベントが行われ、終日、熱戦が繰り広げられた。

## 県知事杯争奪戦

最も熱い戦いが繰り広げられるのが知事杯戦で、日本棋院の正式なルールが適用される。参加者は高段者が多く、高校生・中学生・小学生の部に分かれて対局し、各上位3人が表彰される。表彰者は「福岡県江蘇省青少年囲碁交流会」の福岡県代表候補になる。今回は52名(高8名・中21名・小23名)がエントリーし、白熱の戦いが展開された。福岡市西区から参加した水町竜也君はサッカークラブに所属する6年生。祖父に影響を受けて始めた囲碁は1年半足らずで3段に昇段。まさに文武両道を地で行っている。祖母の声援を受けて善戦したが今回は4勝2敗で小学生の部では6位だった。来年はもっとレベルを上げて入賞できるように頑張りたいと決意を新たにしていた。



## ふれあい囲碁教室

異年齢交流戦、県知事杯争奪戦と同時に始まった「ふれあい囲碁教室」は安田九段の最も力を入れている活動のひとつである。一五名の参加があり、大人対子ども対戦が行われ、吉田審判長、右田会長も参加された。古賀市から4歳、6歳、8歳の3人の子供と初めて参加された一家は、ネットでの大会を見つけて親子で初めての囲碁体験。「夏休みの素敵な家族のイベントになった」と満足していた。8局対戦した3名にチャンピオン賞として安田九段の色紙が贈られた。その後、同会場で指導者研修会が行われ、参加者は「安田九段が囲碁だけではなく人間教育までしてくれるのが魅力です」と感想を述べていた。

## プロ棋士による多面打ち

このコーナーは子どもたちにとって、プロの手ほどきを直接受けられるコーナーである。緊張もするけど収穫も多いと親も子も期待が膨らむ。今年は26人の応募があり、2回に分けて行われた。参加した子どもたちは一手でも多くの手を学ぼうと真剣そのもの。12〜15順目で大方の勝負がつき、棋譜の検討に入り、プロと一緒に一手、一手を振り返る。全対局が終わり、安田九段からは「来年は、



もっとレベルアップしてプロに勝つくらいの意気込みで挑戦してほしい」と締めくくった。

## ☆ 講評と結果 ☆

吉田審判長は「年々、レベルは向上し、特に中学生の部の進歩が著しい。入賞者は2日シーホークで開かれる中国江蘇省との交流会で、頑張つて欲しい」とエールを送った。

## 第16回福岡県青少年囲碁大会 知事杯争奪戦 対戦結果

小学生の部			中学生の部			高校生の部		
3位	準優勝	優勝	3位	準優勝	優勝	3位	準優勝	優勝
内畑 将輝	井上葵乃介	三輪真之祐	佐々木柗真	武原 歩美	寺下龍太郎	坂田 萌樹	塩田真一朗	阿部健太郎
飯塚東小6年	国分小6年	津屋崎小6年	九国附属中1年	明治学園中3年	筑陽学園中3年	田川高校2年	ひびき高3年	小倉高2年



わたしの  
主張  
2014

少年の主張 福岡県大会 「今中学生が訴えたいこと」



昭和54年の国際児童年を契機に始められ、今年で36回目を迎えた少年の主張福岡県大会が苅田町の中央公民館で開催されました。

今回11,312名の応募があり、各学校、地域で選抜された295点の中から、厳正な審査を経て最終選考に残った15名の中学生が堂々と日ごろの思いや考えを発表しました。

今大会は、苅田町青少年育成町民会議をはじめ苅田町、苅田町教育委員会との共催で開催され、司会は新津中学校の梅林大希さん等生徒会役員が務め、京築手話協会の皆さんの手話通訳の協力で進められました。

開会にあたり、右田喜章県民会議会長は「この少年の主張大会は、人格を形成する上で重要な時期にある中学生が、日常生活の中で出会う思い、考え、感銘を受けたこと等を自分の言葉でしっかりとまとめ、表現することにより今の中学生への理解と感心を深めていただくとともにグローバル社会における人材育成を目的に開催している。発表される皆さんは『自分が福岡県中学生の代表である』と堂々と発表してください。会場の皆様には、中学生の心、思い、熱いメッセージを受け取っていただきたい」と挨拶しました。続いて開催地を代表して苅田町青少年育成町民会議の吉廣啓子会長が開催地として歓迎の意を述べ「堂々と自分の思いを発表してください」とエールを送りました。発表テーマは、命の大切さ、家庭、いじめ、福祉、インターネットとの付き合い方、異文化理解の大切さ等、多岐にわたるものでした。中学生らしい等身大の素直な主張は聴衆にも深い感銘を与えました。

審査の発表までの間、新津中学校吹奏楽部による楽しい演奏、片島小学校の皆さんによる天神神楽「おろち」、かんだ太鼓波動会による力強い太鼓打ちが緊張した雰囲気をもたせ、会場に彩を添えました。

審査の結果、県知事賞には「子は宝、自分の命より大切なもの」を発表した飯塚市飯塚第一中学校3年の山本由菜さんが選ばれ、11月9日に東京都で開催される「少年の主張全国大会」に福岡県代表として推薦されました。(第19号編集集中に山本由菜さんは、全国大会への出場が決まりました。)その他の賞は下記に紹介します。

なお、来年度は、岡垣町で8月29日開催の予定です。

優秀賞受賞者

(発表順)

氏名	題名	市町村名	学校名	学年
大塚 優奈	ステキな大人になるために	中間市	中間南中学校	3年
武田なつき	がんばり続けること	小郡市	大原中学校	3年
成松 桃	戦争について考えたこと	苅田町	新津中学校	3年
中國 七海	私たちの安心・安全の町づくりのためにできる事	飯塚市	飯塚日新館中学校	2年
良永うめか	愛情	久留米市	屏水中学校	3年
石井 里奈	命のつながり	田川市	弓削田中学校	3年
楠田 健太	広げたい言葉の力	飯塚市	穂波西中学校	3年
水摩 祐香	人と心からのつながりを	中間市	中間南中学校	3年
小笠原巧大	自分の体と向き合う	芦屋町	芦屋中学校	1年
原田麻史依	老人ホームでのふれ合い	行橋市	今元中学校	1年
中野 沙栄	私の体験から伝えたいこと	久留米市	屏水中学校	3年



県教育委員会賞

『言葉の責任』

みやこ町育徳館中学3年  
中村 栞



優秀賞第一席

『今伝えたい私の思い』

久留米市牟田山中学3年  
牛島 みなみ



審査委員会特別賞

『「知る」ことが理解の第一歩』

飯塚市飯塚第一中学3年  
サファタ・フトラスト





福岡県飯塚市立  
飯塚第一中学校三年  
山本 由菜

「子は宝」

「自分の命より大切なもの」

生まれたばかりの赤ちゃんを抱き、若いお母さんが感動の涙を流す姿をテレビなどで見たことがあると思います。ここにいる私たちも生まれたことをたくさんの人に喜んでもらい、たくさん愛情に包まれてきたはずで、ところがいつの間にか、親に反抗したり、親の言葉に耳を傾けなくなっていますか。

私もいつの頃からか父の一言にイラツとしたり、「そんなこと言われなくても分かっている」と思うことが増えてきました。しかし、それを言葉にしたことはありません。それは、理由があるからです。私は今、父と弟と3人で暮らしています。母は、白血病にかかり、去年、四十四才で天国へ旅立ちました。しつけには厳しい母でしたが、たくさん愛情を注いでくれました。私が落ち込んでいる時も、楽しくて仕方ない時も、話を聞いてくれました。常に私の隣には母の笑顔があり、今でもその笑顔を思い出さない日はありません。

第191号  
日が経つにつれ、入院していた母の病状は悪化していききました。とうとう自分の力では立つことも、歩くこともできないようになりました。

母は、毎日日記をつけていました。その日記は、薬の副作用の吐き気やだるさ、死ぬことへの不安など赤裸々に綴られていました。その中に「きつい、でも子どもたちのために病気に勝たなきゃ。子どもたちの笑顔が見たい」と書かれてあるのを見つけてました。読んだ瞬間、涙があふれました。苦しい治療に耐えながらも私たちのことを思って病室と闘っていると思うと胸が締めつけられるようでした。私が病室を訪ねると、母は、やせ細った手で私の手を握ってくれます。細い手から伝わる母のぬくもりを感じながら、あとのくらしい一緒に居れるのかと考えると、急に悲しくなり、母の前で泣いてしまいました。母も私を見て泣きました。私は、泣きながら母の涙を拭いてあげました。すると「由菜の笑顔が一番の薬だから笑って」と言いました。私は泣きながら精一杯笑ってあげました。それから一週間、何をしても母のことしか考えられませんでした。担任の先生から、すぐ病院に行きなさいと言われた時、今まで感じたことのない嫌な予感を感じたことを覚えています。病院へ向かいながら涙が止まりませんでした。だんだんと母の体が冷えていくのがわかりました。そして、家族に見守られながら、息を引き取りました。母の心臓が止まった後も私はずっと手を握っていました。もつと一緒についてあげれば、もつとありがとうを言えば、もつとお母さん大好きだよと伝えればよかつた心の中で考えながら。

母のおかげで、今まで以上に人の気持ちを考えられるようになりました。私には十四年間という少ない時間の中でした。母が、たくさん愛情を注いでくれた母がいたので、家族で協力し合いながら、今は毎日笑顔で過ごしています。母がいなくなった代わりには父が家事をしてくれています。また父も、中学三年生の娘にどう接していいのかと悩んでいると思います。そんな父の姿を見ると、とても文句を言ったり反抗したりすることはできないのです。父にはとても感謝しています。毎日疲れているのに必ず夕食を作ってくれます。母のような優しく包み込んでくれる愛情ではないけれど、子供や家族を守ってほしいという愛情が伝わってきます。これからも母がくれた愛情を忘れずに、父と弟と三人で力をあわせて母の分まで頑張って生きていきます。中学生にもなれば、親や周りの大人に反抗したいということもあるでしょう。だけど、あなたのその言葉や態度が愛情を注いでくれた親を悲しませたり、傷つけたりすることに気付いてください。あなたが一番近くで見守ってくれている、母の日記の最後のほうに、こんな言葉が残されていました。「子供は宝で、自分の命より大切なものだから」と皆さんも親の愛情に気づき、家族を大切にしてください。

講評 感受性磨き胸打つ主張を

審査委員長 蒲原 由和

大会に寄せられた作品のテーマは多岐にわたっていますが、どれも底流にあるのは「くじけない力」「前を向く力」に行き着くような気がします。「いかに聞く人の共感と感動を得られたか」に私たち審査員は注目しました。

県知事賞に選ばれた山本由菜さんの主張も、母親を若くして亡くした悲しい出来事を経て、強く生きることへの決意が

にじんできていました。母の生前の思い出や闘病中の会話、残された家族との生活について目をそらさず向き合い、その様子を克明に記し考えることで悲しみを乗り越えようとする勇氣と豊かな感受性が私たちの胸を打ちました。聞く人の心に届く主張は、必ず豊かな感受性に支えられています。そもそも人が成長していくうえで大切な感受性とはなんでしょう。それは、生まれつき備わっているものだけでなく、日々の気づきの積み上げと自問自答によって育まれるのだと思います。今大会の多くの主張にみるように、日常の事象に目を凝らし、耳を澄まし、解決や改善のための行動につなげようとすることで感受性は磨かれるでしょう。みなさんの主張は今後、多様に変化していくはずで、今回の作品を将来読み返して、その後の人生に生かす糧にしてもらえれば幸いです。

ご存知ですか「児童の権利に関する条約」

【条約の主な内容】

- 子どもは、教育を受けることや遊ぶことが認められるべきです。
- 子どもは、自由に考え、信じる事が認められるべきです。
- 家庭環境に恵まれない子どもに保護と援助が与えられるべきです。
- 子どもは、あらゆる差別や暴力、虐待などの不当な扱いから守られるべきです。

◆お問い合わせ先◆

福岡県新社会推進部青少年課  
TEL 092-643-3387



# 家庭の日・オアシス運動

## —入賞作品の紹介—

# 子どもの健やかな成長は家庭から

「家庭の日」・「オアシス運動」が地域に広く普及するように小・中・高校生・特別支援学校生を対象にポスター及び作文を募集しました。今年度は合わせて1,059点の応募があり、1次審査、2次審査を経てそれぞれ最優秀賞1名、優秀賞5名、奨励賞20名が決定しました。入賞した作品のうち、最優秀作品を紹介します。

なお、入賞作品の表彰は27年1月、福岡県青少年育成指導者研修会において、また、展示は2月初旬に県庁ロビーで予定しています。

### ◇ポスターの部 最優秀賞



宗像市 河東中学校2年  
松山 楓花

### ◇作文の部 最優秀賞

#### 日曜夕方の我が家

大牟田市 田隈中学校3年

大野 浩志

「これから夕食にでも出かけますか。」  
カーナビの自動音声案内から、そんな呼びかけが聞こえる。  
「はい、出かけます。」  
カーナビの音声に向かって、そう答えるわが家族。毎週日曜日の夕方の我が家の光景だ。別にどこかに外食に行くわけではない。7年前、祖母が亡くなってから、毎週日曜日の夕食は、父と母と僕と家族三人で二十分ほど離れた祖父の家に出かけ、一緒に夕食をとることにしたからだ。別に豪華なおかずにするわけでもなく、いつも同じようなメニューの夕食だ。し

かし、祖父にとつて週に一度、僕たちと一緒にとる食事は、祖母を亡くした後のとても楽しい時間のようなのだ。  
これまで、僕の部活の練習や試合が遅くなつて、行くのが予定よりも遅くなるときもあった。時には、疲れていて機嫌が悪いまま行くときもあった。しかし、  
「よう来たね。」  
と祖父はどんなときも、僕が来るのを楽しみに待っていてくれる。そして、一緒に食事をとりながら、本当にうれしそうに顔をしてくれる。そんな時間を一緒に過ごす、不思議と疲れはどこかに飛んでいき、心もとても落ち着いてくる。  
僕の家は共働きで、両親が忙しいときが多い。でも、母は、僕が一人でコンビニの弁当で夕食を済ませるようなことは絶対しない。また、父も、忙しい中、時間をどうにか都合をつけ僕が一人で食事を摂ることがないようにしてくれている。

しかし、今年の年度初め、父も母も仕事の都合でどうしても夕食を一人で済ませなければならぬ日があった。体調が悪いわけでもないのに、いつもと味が違う気がした。僕は、祖父の気持ちに少しわかるような気がした。一人で食事を摂り、昼食の弁当箱を洗っていると、いつも母は、自分の朝練に合わせて朝から準備してくれていることや土日の試合や練習試合のときも休日であるにもかかわらず早朝から弁当を作ってくれていることに対して、本当に感謝しなくてはならないと思った。  
そう思うと、今までやってきた手伝いの他にも、何かなくてはいけないという気持ちになつてきた。家族みんなで語らいの場を持つことができ、楽しい時間を共有できること、それは、本当にすごく幸せなことだと再確認させられた。  
また、日曜日が来た。  
夕食を積み祖母の家に向かう我が家。きつと今日も笑顔で待っていてくれるだろう。どんなに忙しくても、日曜日夕方のこの時間は、ずっと、大切にしていきたい家族の時間だ。  
(原文のまま)

## 優 秀 賞

### 〔作文の部〕

大野城市	御笠の森小学校1年	吉田 悠人
柳川市	垂見小学校6年	江崎 美穂
北九州市	守恒中学校1年	岡村 彪世
福岡市	内浜中学校2年	細川 由貴
福岡県立	新宮高等学校1年	横山満理奈
遠賀町	浅木小学校2年	園田 一貴
大野城市	大利小学校5年	緒方 葵
みやま市	上庄小学校5年	井 菜々花
遠賀町	遠賀中学校1年	高須 結奈
芦屋町	芦屋中学校1年	砂川 晴海

### 〔ポスターの部〕



### 平成26年度「少年・少女、主張作文」表彰式、作文発表会を議会で開催

古賀市青少年育成市民会議

青少年健全育成の一環として新聞、テレビの報道や学校、家庭などの日常生活を通じて感じたことや意見、考えなどについて作文を書くことによって豊かな感覚を身につけて貰うことを目的として「少年・少女の主張作文」を毎年1回開催しています。

平成26年度も多数の応募があり、その中から優秀作品、入選作品を選び表彰式を行いました。

そして、今年は市議会、議会事務局のご協力により、10月1日古賀市議会議場にて初めて実施することが出来ました。出席した子ども達や保護者の方々にもとても喜んでいただいた表彰式、並びに発表会でした。



平成25年度 古賀市青少年育成市民「少年少女の主張」作文表彰式及び作文



# 地域の話題



県内各地で行われた様々な行事を報告します

### 小学生あそび体験クラブ 「ドリームトレイサー2014」

糸島市青少年育成市民会議

糸島市では、市内の小学4～6年生を対象に、仲間や自然とふれ合い、たくましく成長してくれる事を願って「ドリームトレイサー」事業を実施しています。

毎年、糸島の素晴らしい自然を活かしたキャンプや登山、ナイトハイク、ライフセービングなどを行っています。

この事業では、多くのボランティアスタッフが活躍されています。学生から社会人まで幅広い年齢層のボランティアスタッフが、時には厳しく、時には



楽しく、頼りになる“お兄さん”“お姉さん”として、子ども達の成長を願って、暖かく指導していただいています。



この弁論大会は、今年で62回目となる伝統的な行事で、児童・生徒に学校・家庭・社会での健康な生活を確保するためにはどうしたらよいかを考えさせることを目的として、関係団体のご協力の下、毎年実施しています。今年7月15日に開催し、市内の小・中・高校生19名が熱弁を振るいました。子ども達の清々しい発表を聞いて、毎年のことながら心が洗われる気持ちになりました。また、当日は、事前に応募されていた標語の中から優秀作品の発表・表彰も行いました。

大牟田市では、7月の「青少年の非行・被害防止全国強調月刊」に合わせて「青少年健全育成弁論大会」を開催しています。

第62回青少年健全育成弁論大会

大牟田市少年センター



いつもそこに、いつでもそばに。



ココロがある。コタエがある。  
西日本シティ銀行





# 事務局だより

主な行事(平成26年7月16日～11月15日)

7月 14日(伊)青連協常任委員会 (以降8/19、10/17)

17日(伊)県アド連總會

18日(伊)少年の主張第一次審査

(以降、第二次審査7/25)

8月

4日(伊)青少年開基大会実行委員会

6日(伊)5日(伊)「野外学習」

19日(伊)第4回広報部会 (以降、9/8、10/7、21、11/4、17)

23日(伊)少年の主張県大会

24日(伊)青少年開基交流大会

10月

2日(伊)ジュニアリーダー養成事業実行委員会

6日(伊)第5回健全育成部会(以降、11/4)

7日(伊)第2回家庭部会

10日(伊)「家庭の日」・「オアシス運動」  
作文第二次審査

14日(伊)「家庭の日」・「オアシス運動」  
ポスター第二次審査

19日(伊)青年リーダー養成事業に係わる募金活動

22日(伊)さわやかマラソン大会第3回  
事務局会議(以降、11/14)

31日(伊)第3回総務部会

11月

1日(伊)3日(伊)青年リーダー  
養事業東北研修

9日(伊)少年の主張全国大会

新賛助会員(平成26年10月22日現在)

団体賛助会員

NPO法人 次世代のチカラFUKUOKA (福岡市)

個人賛助会員

馬場 忠久(久留米市)

吉野 利子(京都府)

## 赤い羽根共同募金



高齢者、障害者、子どもたちなどへの地域の福祉活動を支援します。災害時には「災害ボランティアセンター」の設置や運営にも役立ちます。

この広報紙は、共同募金の配分を受けて発行しています。

## 編集後記

記録的な大雨や台風など多くの自然災害に見舞われた今年の夏▼県民会議の行事が集中するこの時期、中でも8月6日から行われた「野外学習」は台風8号の影響でいくつかの日程の変更を余儀なくされました▼スタッフ、参加者、ボランティアの皆さんの苦勞が報告記事からも伺えます▼例年開催されている開基大会、少年の主張大会は出場者や発表内容は変わりますが、例年通りには広報にとってはとて難しいことですが、どこに的を絞るか?レイアウトをどうするか?去年と一味違った伝え方を考えるか?悩むところであり、難しいところですが、それが広報の醍醐味かもしれません。(広報部長 馬場京子)

## 青少年育成 考

「正しい日本語を」

公益社団法人福岡県青少年育成県民会議



理事 井浦 蘭子

子ども達の賑やかな声が響くのは火・水曜日の午後、私の書道教室へ通ってくる子ども達で、大きな声での挨拶、靴揃えから始まる。

長期に渡って関わっている子ども達を見ていると、社会性が育っていない事や基本的な躰が出来ていない事に驚くが、私自身その事に慣れてきているのも確かである。

その様な中、一人の指導者、地域の大人としての責任の重要性を感じる事も多い。

近年激変する社会状況ではあるが、時代がどう変化しようとも子ども達は純心である。大人が忘れていた様な事にハッとさせられたり、大人では考えられない様な事に大声で笑い出したり。指導に多少支障を来すものの、子ども本来の姿を見れば、嬉

しくもなるが、けじめは大事!時折大きな雷を落としながらも厳しく楽しくやっています。

真剣に向き合う中で信頼関係が出来たと感じる事もしばしば。喜びの瞬間である。又継続、努力の大切さは一緒に学ぶ先輩達からも得る事が出来、異年齢の関わりの大切さも感じとれる。

小さな事でも出来るようになるれば大いにほめ、それを重ねる事により結果と評価がついてきて自信となるのは子どもも大人も同じ。

その姿を見られるのが私の一番の喜びであり又その時の笑顔に助けられている。江戸末期の漢学者の広瀬淡窓は「可愛くば二つ叱って三つほめ、五つ教えて良き人にせよ」と言っている。叱る事も大切だが、ほめる事はもっと大切だと思う。

## 広報紙 190号の訂正とお詫び

平成26年7月15日付け発行の広報紙「若いなかま」190号において表紙の「家庭の日」・「オアシス運動」最優秀ポスター入選者名を誤って掲載しました。関係者の方々には、大変失礼をしました。改めて訂正させていただき、心よりお詫び申し上げます。

正しくは、

- ・最優秀ポスター入選者 須恵町立須恵東中学校2年生 荒巻菜月 さん。
- ・最優秀作文入選者 遠賀町立遠賀南中学校1年生 西依由里香 さんです。

## 青少年の健全育成のために

### 賛助会員入会のお願

次代を担う青少年の健全育成を図るため、県民会議では、少年の主張大会、「野外学習」、マラソン大会など、様々な活動をしています。

県民会議の活動に賛同いただく賛助会員の募集を行っています。会費は左のとおりです。電話(092-643-6001)いただければ、資料をお送りいたします。

ホームページ: <http://www.fayd.jp/>



### 賛助会員の年会費

個人	1口	1,000円
法人又は団体	1口	15,000円
特別賛助会員	1口	50,000円

### 納入いただく方法

会費は、社団法人福岡県青少年育成県民会議の次のいずれかの口座に納入していただくか、県民会議事務局に直接ご持参ください。  
西日本シティ銀行県庁前出張所(普通預金) 0163919  
福岡銀行県庁内支店(普通預金) 526475  
筑邦銀行福岡支店(普通預金) 1597091  
福岡中央銀行本店(普通預金) 1030569  
県庁内郵便局郵便為替口座 福岡 01700-5-4057

この用紙は、森林資源保護のため再生紙を使っています。